

視察報告書

- 1 視察日時 令和7年10月8日（水）午前10時00分～午前11時30分
- 2 視察先 津山市議会
- 3 視察目的 所管事務の調査にあたり、他市議会の取組を確認
- 4 視察参加者 ・光成 良充 ・横山 裕太 ・松田 勲
・中田 浩二 ・田村 勝

5 視察概要

議会ICT推進委員会は、議長から調査・研究を依頼された「オンライン会議の取組について」先進地である津山市議会へ取組状況を視察した。

オンラインを活用しての委員会が開催できるためにこういった準備が必要か、委員会条例の改正、要綱の策定などについて伺った。

津山市議会では、オンライン委員会を開催するために、委員会条例で開催方法に特例を設け、大規模な災害等の発生または重大な感染症のまん延により委員会の開会場所に参集することが困難と認める場合は、オンラインによる方法で委員会を開くことができると改正している。オンラインによる出席を希望する委員は委員長に申請書を提出することとしている。

オンラインを活用した委員会運営要綱では、オンラインでの参加を委員長が認めた場合、オンライン委員会開催通知書を所属委員に通知することとしている。

オンライン委員会の開催を行った経験がある、議会活性化調査特別委員会での開催状況、開催に至った経緯について伺った。

委員が感染症に罹患したため、本人からの申し出によりオンライン委員会の開催に至ったが、通信の影響で回線が途絶えることがあったが問題なくできたとのことであった。設備は各自のタブレット、委員会室のモニター、音声設備等を活用して、オンライン接続用のZ o o mで行ったとのことであった。

【質問事項】

・オンラインでの開催対象を「感染症＋災害」としたのはなぜか。育児・介護を含めなかった理由は。

→オンラインで委員会が開催できることになったのが、令和2年の総務省からの通知によるもので、感染症や災害時は明確な理由がわかるため可能とした。育児・介護は程度の問題があり、どの段階ならOKという明確な基準が定めにくいことから見送っている。

- ・オンライン委員会開催にあたって設備機器の導入、費用は。

→なるべく費用をかけずに、市にあるものを使用するように進めたので、プロジェクター、スクリーン、三脚の購入に約74,000円の費用がかかったが、パソコン、マイク、カメラは市所有のものを貸出してもらい、Zoomも市所有のアカウントを利用するようにしている。

- ・実際に行ってどうだったか。メリット、デメリットは。

→デメリットは考えられない。強いてあげれば議員間でのタブレット習熟度の違い、習熟度を上げないと開催したが音信不通になる可能性もあるが、メリットしかないように思っている。

6 所感

視察を終えてまず思ったことは、オンライン委員会は開催されないほうが良い。開催条件が大規模な感染症の拡大、大規模な災害の発生が開催条件であるため、感染症のまん延、災害の発生はないに越したことはないからである。

しかし、何が起こるかわからない中で、準備はしておくべきである。

赤磐市でオンライン委員会を開催するにあたり、会議規則、委員会条例などの改正を検討し、必要な設備の洗い出しなどを進めていくべきであると、視察を行ってより一層思いが強くなっている。

なるべく費用をかけず貸出可能な設備を利用するようにして、負担を軽くして、令和8年4月1日施行で進めていく考えである。

以上